

課題解決フォーラムについて

「課題解決フォーラム」では、研修生の皆さんが小グループに分かれ、あらかじめ指定されたテーマについて対話します。

1 次のテーマについて対話します。

①	人事管理の失敗学 部下のやる気をそいでしまった経験又は上司からやる気をそがれた経験について ⇒ 改善するためのいいアイデアを考えよう！
②	業務管理の失敗学 管理職による業務の進行管理(マネジメント)がうまくいかなかった経験について(自分が部下だったときも含めて) ⇒ 改善するためのいいアイデアを考えよう！

※ 失敗学 … 事故や失敗が発生した原因を解明し、今後の事故や失敗が起きることを未然に防ぐための方策を追求します。

2 進め方

(1) 10月10日(火) 17時からの「グループ討議」の時間は、自己紹介を行った後に、グループ(ホームグループとなります)ごとに、テーマ①②それぞれについて、座長(研修所で指名)を中心にして事前に各自が作成してきた「課題解決フォーラムシート」の内容を共有するとともに、翌日午後に行うワールドカフェ方式の進め方等について理解を深めてください。

(2) 10月11日(水) 午後の「課題解決フォーラム」の時間には、ワールドカフェ方式により、途中、班のメンバーを入れ替えながら討議を進めます。

ア セッション1 13時05分～15時05分 ⇒ テーマ①について対話します。

(20分) 第1ラウンド(テーマについて探求)

ホームグループで自由に話し合い、各人が、テーブルに用意してある模造紙に、話のキーワード、アイデア、絵などを簡単に記載して残していきます。

(20分) 第2ラウンド(アイデアをやりとり)

第2ラウンドでは、各グループにホストを1人残し、他のテーブルに移動します。

※ できるだけ第1ラウンドの人とかぶらないよう移動します。

それぞれのテーブルに残ったホストは、新しいメンバーを迎えて、お互いに簡単な自己紹介をした後、そのテーブルでこれまで話し合われた内容を説明し、その後、同じテーマについて対話を続けます。

※ 各人は、模造紙に、話のキーワード、アイデア、絵などを簡単に記載して残していきます。

(20分) 第3ラウンド(さらなるやりとり)

(10分) ～休憩～

(20分) ホームグループに戻って、それぞれが、第2ラウンドと第3ラウンドで見聞きしたことを共有します。解決策取りまとめ

(20分) 発表

いくつかのグループから、各ラウンドを通して、気づいたこと、感じたこと、対話を通して出たアイデアや意見などを発表していただき、講師からのコメントを頂戴します。

(10分) ~休憩~

イ セッション2 15時05分~17時05分 ⇒ テーマ②について対話します。

セッション1の流れを繰り返します。

ウ ふり返り 17時05分~17時45分

講師からの総評、質疑応答、意見交換



3 ワールドカフェ実施上の注意点

(1) ワールドカフェにはルールがあります。

参加者との対話を楽しむ	発言している人の意見をきちんと聞く
他人の意見を否定しない	質問して対話を広げる
テーマに焦点を絞る	話し合った内容を紙に簡単に書き留めていく

(2) ワールドカフェにはグループの司会進行役がいません。

ワールドカフェには司会進行役がいません。その代わりに、グループを移動するときは各グループのホスト役を決めます。ホストは司会ではなく、新しくグループに来た人にこれまでの対話で出た意見を伝える役割を持ちます。

特定の人が対話を取り仕切ると、自由度が限られてしまうからです。ホストも司会進行をしてはいけません。メンバーの誰もが話し手になり、聞き手になることが求められます。

(3) 議論の収束を期待しません。

例えば、問いが「〇〇を改善するためには何が必要か」という場合でも、この解決策をひとつに決定する必要はありません。結論を出すことが目的ではないからです。自分と違う意見を受け入れて耳を傾け、さらにそこから対話を広げていくことが肝要です。

(4) 「結論の発表」もしません。

従って、ワールドカフェでは「結論の発表」をする必要はありません。「結論を出さないといけない」と思うと、途端にプレッシャーがかかり、自由な意見交換よりも結論を出そうとする方向に対話が向かってしまいがちです。問いの答えを出すことではなく、参加者全員がのびのびと意見を共有することが、ワールドカフェの意義だと理解しましょう。

※ 気づいたこと、感じたこと、対話を通して出たアイデアや意見などの発表となります。

■参考 ワールド・カフェの歴史

1995年、サンフランシスコ市郊外で、「知的資本のパイオニア」というテーマの会議を開催していました。会議2日目の朝のこと、会議が始まるまでの時間、庭や近所を散策してらうことにしていたのですが、朝からの大雨で予定を変更しなければならなくなりました。

そこで、参加者にはコーヒーを飲みつつ、時間まで雑談をしながら待つてもらうことにして、いくつかテーブルを用意し、クロスの代わりに模造紙を敷き、それぞれに花を一輪置きました。

やがて、参加者たちが集まりはじめ、テーブルを囲んで、カフェのような雰囲気でおしゃべりが始まりました。前日から知的資本について話し合いを行っていたため、いつの間にかそのことがおしゃべりのテーマとなり、参加者たちは、クロス代わりの模造紙に思い思いに落書きをしながら対話を続けました。

しばらくすると、参加者の1人から「他のテーブルでどんな話し合いが行われているのか聞いてみたい。テーブルを移動して対話を続けてみないか？」という提案がありました。メンバーたちはその提案に賛同し、さらに話し合いが続けられました。

話し合いを終えた時、各テーブルの模造紙を見たメンバー全員が、そこから何かが浮かび上がってくるような不思議な感覚を覚えたそうです。

その後、この時に想像できないほどの多くの知識や洞察が生まれたことに感銘を受けた主催者が、この経験から主体性と創造性を高める話し合いのエッセンスを抽出してまとめたものが、ワールド・カフェの原型となりました。